

# 1 株式会社セブン&アイ・フードシステムズ

|              | 各社の考え方  |
|--------------|---|
| ① 算定を行う背景・目的 | <ul style="list-style-type: none"><li>● サプライチェーン全体のCO2排出量とその割合及び排出量の多いカテゴリを把握し、今後のCO2排出量削減と環境負荷の低減、事業の効率化に向けた効果的な施策立案の参考とする。</li></ul>  |
| ② 算定結果の活用方法  | <ul style="list-style-type: none"><li>● サプライチェーン全体での改善余地の把握と働きかけの根拠とする。</li><li>● 導入した省エネ設備等の費用対効果を確認し、次期の開発に活かす。</li><li>● CSRLレポート等で、算定結果と継続的推移を記載し対外的に報告をしていく。</li><li>● ステークホルダーからの問い合わせや、環境関連アンケートへの回答資料として活用する。</li></ul> |
| ③ 算定のメリット    | <ul style="list-style-type: none"><li>● CO2排出量をカテゴリ別に把握することにより、取り組みの優先順位決定に役立てることが可能となる。</li><li>● サプライチェーン全体のCO2排出量を把握している企業として、環境への取り組み姿勢を示すことができる。</li><li>● ステークホルダーからの信頼性向上。</li><li>● 上記メリットによるグループ全体の企業価値向上。</li></ul>   |
| ④ 社内の算定体制    | <ul style="list-style-type: none"><li>● BPOによりエネルギー使用量をデータベース化し、正確な状況把握に努めている。</li><li>● 社内横断的組織である環境部会事務局と関連部署（店舗管理部、商品部、人事総務部等）で連携しデータ情報収集、算定をしている。</li></ul>   |

# 2 株式会社セブン&アイ・フードシステムズ

|                             | 各社の考え方   |
|-----------------------------|--|
| <p>⑤ サプライチェーン排出量の削減に向けて</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 店舗網、物流量に合わせた拠点及び配送ルート見直しによるCO2排出削減。</li> <li>● バックスペースも含めた照明のLED化、省電力機器（厨房設備、空調設備）への切り換え、節水機器の導入など、環境負荷低減の設備投資を推進。</li> <li>● カテゴリ1の割合が、CO2排出量全体の5割以上、スコープ3においては約8割を占め、大きな排出量となっている。当社では環境方針において「事業活動の中で、省エネルギー、環境汚染の予防に努めることで企業の責任を果たす」としており、今後も事業活動が主となるカテゴリ1について、設備、運用両面の取り組みを推進する。</li> <li>● また、今後サプライチェーンのCO2排出量について、継続的に推移を確認することで、排出量削減のホットポイントを把握し、より効果的な取り組みを検討していく。</li> </ul> |
| <p>⑥ サプライチェーン排出量算定の課題</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 算定対象が多岐に渡り広範囲なため、関連各部署の情報収集と算定にかかる負担が課題としてあり、取引企業を含めた継続的なデータ収集の仕組み作りが必要。</li> <li>● 事業規模との相関関係を明確にするため、原単位での排出量把握に努め、政策的にデカップリングを推進していかなければならない。</li> </ul>   |
| <p>⑦ その他<br/>(任意)</p>       | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 食品ロス削減のため自動発注を導入するなど、本業を通じたCO2削減に努めている。</li> <li>● CO2排出量算定の適切性担保のため第三者検証を取得している。</li> <li>● 基幹ブランド「デニーズ」において外食事業初のエコマーク認定を受け、これを社内外の環境意識啓発に活かすことで、省エネ活動の実効性を高めていく。</li> <li>● 今回、サプライチェーン全体の排出量把握にあたり、事業の特性上該当または発生しない、カテゴリ8、10、11、13、14、15を除く9カテゴリについて算定した。</li> </ul>  |

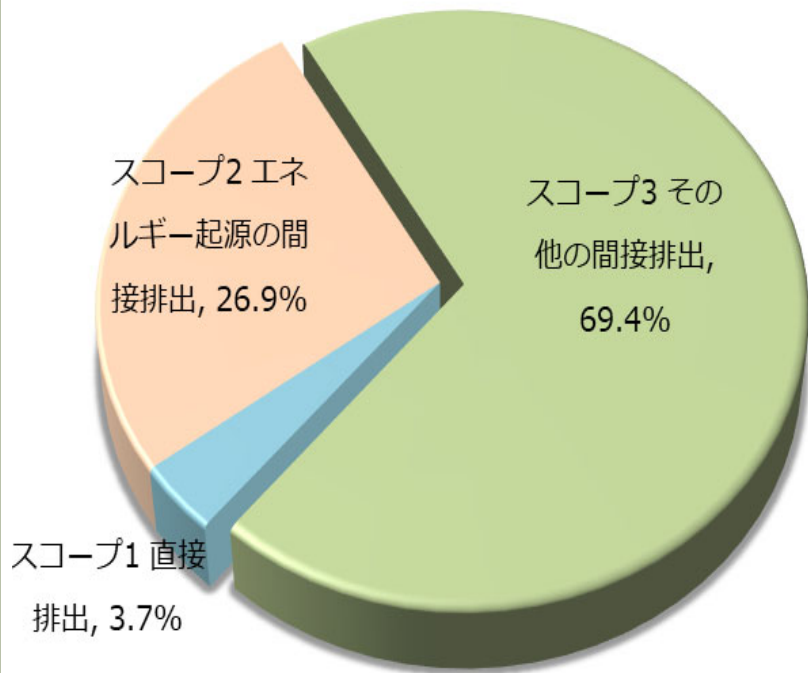
# 3 株式会社セブン&アイ・フードシステムズ

| カテゴリ                             | 算定方法             | ※算定対象期間：2021年3月～2022年2月      |
|----------------------------------|------------------|------------------------------|
|                                  | 活動量              | 原単位                          |
| カテゴリ1「購入した製品・サービス」               | 商品カテゴリ別売上高       | 金額当たり排出原単位 (t-CO2/百万円)       |
| カテゴリ2「資本財」                       | 設備投資金額           | 資本財当たり排出原単位 (t-CO2/百万円)      |
| カテゴリ3「Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー活動」 | エネルギー使用量         | エネルギー量当たり排出原単位 (t-CO2/t)     |
| カテゴリ4「輸送、配送（上流）」                 | 輸送重量×輸送距離        | 輸送重量×輸送距離当たり原単位 (t-CO2/千tkm) |
| カテゴリ5「事業から出る廃棄物」                 | 廃棄物種類別排出量        | 廃棄物種類別原単位 (t-CO2/t)          |
| カテゴリ6「出張」                        | 出張費支給額           | 出張費当たり排出原単位 (t-CO2/千円)       |
| カテゴリ7「雇用者の通勤」                    | 交通費支給額           | 交通費支給額当たり排出原単位 (t-CO2/千円)    |
| カテゴリ8「リース資産（上流）」                 | 該当なし             |                              |
| カテゴリ9「輸送、配送（下流）」                 | 輸送重量×輸送距離        | 輸送重量×輸送距離当たり原単位 (t-CO2/千tkm) |
| カテゴリ10「販売した製品の加工」                | 該当なし             |                              |
| カテゴリ11「販売した製品の使用」                | 該当なし             |                              |
| カテゴリ12「販売した製品の廃棄」                | 廃棄物排出量（販売金額より推計） | 廃棄物排出量当たり排出原単位 (t-CO2/t)     |
| カテゴリ13「リース資産（下流）」                | 該当なし             |                              |
| カテゴリ14「フランチャイズ」                  | 該当なし             |                              |
| カテゴリ15「投資」                       | 該当なし             |                              |
| 「その他」                            |                  |                              |

# 4 株式会社セブン&アイ・フードシステムズ

## サプライチェーン排出量算定結果

サプライチェーン全体の排出量 内訳



スコープ3排出量 内訳

